

科目名	生物活用	単位数	2単位	学科・学年	農業総合 A専門コース 科 2年	
使用教科書	生物活用	実教	副教材等	なし		
学習目標	園芸作物や社会動物の活用に必要な知識を習得させ、それらの生物の特性を活用した両方の特質を理解させるとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を育てる。					
学習評価	○ 次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。					
	①関心・意欲・態度	①学習内容を理解し、主体的、意欲的に取り組む態度を評価する。				
	②思考・判断・表現	①流通経済活動を通して、事象を多面的、発展的に考える姿勢を評価する。				
	③技能	③具体的な事象を通して、流通の成立、発展の過程や役割について表現する能力を評価する。				
	④知識・理解	④現代社会と食品流通における基本的な概念を理解し、基本的な知識を身に付けている。				
		評価方法\観点	①	②	③	④
学習状況観察		◎	○	○	—	机間巡視・観察
プリント教材		○	○	○	◎	補助教材
ノート提出		○	◎	○	—	学期に1回
ペーパーテスト		—	—	◎	◎	定期テスト
※表中の◎は観点の中でより重視するところです。						
履修上の注意	1学期の成績、2学期の成績及び3学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。					

学期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 (評 価 方 法)
一 学 期	4	○生物活用とは何か ○生物活用の大切さ ○私たちの暮らしと生物活用 ○私たちの暮らしと園芸	5	・社会の変化と生物の福祉的活用、園芸作物や社会動物の活用の歴史、私たちの暮らしと植物や園芸作物の関係について学習する。	中間、期末テストで知識、理解を評価します。 学習状況の観察、出席、授業態度、プリント、ノート等の提出状況の評価します。
	5	○植物、園芸がもたらす効用 ○植物を扱う際の留意点	7	・植物がもつ特性および園芸がもたらす効用、植物による健康被害や園芸作物に含まれる有害物質について学習する。	
	6	○私たちの暮らしと動物 ○動物がもたらす効用 ○動物の活用 ○動物を扱う際の留意点	8	・私たちの暮らしと動物の関係について学習する。 ・動物がもたらす効用、動物を活用する三つの活動の特徴や、これらの違いについて学習する。	
	7	○生物の活用した療法とは ○植物を治療に活用する ○動物を治療に活用する	5	・生物を活用した療法と、生物を活用した活動との違いについて学習する。	
二 学 期	9	○野菜の種類と特性 ○野菜の栽培	8	・野菜の種類や特性について学習する ・栽培の基本や栽培計画などに関する知識を活用して、季節や場所に適した野菜を栽培する	中間・期末テストで知識、理解を評価します。 学習状況の観察、出席、授業態度、プリント、ノート等の提出状況の評価します。
	10	○草花の種類と特性 ○園芸デザイン ○草花の活用と管理	10	・草花の種類や特性について学習する ・栽培している草花について、色や形態を考慮した活用法を学習する	
	11	○コンテナ栽培	9	・野菜、草花の成長を観察するとともに、栽培管理をする	
	12	○野菜の利用	6	・野菜の利用方法やその特徴などについて学習する ・白菜、大根のぬか漬けの作り方を理解できている	
三 学 期	1	○園芸療法とは ○バリアフリーとユニバーサルデザイン	6	・園芸療法の特徴や実施方法について学習する ・バリアフリーとユニバーサルデザインについて学習する	期末テストで知識、理解を評価します。 学習状況の観察、出席、授業態度、プリント、ノート等の提出状況の評価します。
	2 3	○世界や日本における園芸療法の実際	6	・アメリカやイギリスなどの海外、および日本における園芸療法の実際について学習する ・園芸療法のプログラム作成方法について理解する	
合計時間数			70		